

## いじめから見えてきた人との関わり

岐阜市立島中学校 3年  
長屋 美佑 (ながや みゆ)

毎月3日は、「いじめを見逃さない日」だ。あの日、起こってしまった悲しい出来事が二度と繰り返されないよう、改めていじめについて考える大切な日となっている。

私の学校には「よくし隊」という活動がある。よくし隊では、標語づくりや仲間のよさ見つけを通して、命を大切に、仲間との関係を良くする活動を行っている。昨年、私は生徒会でよくし隊の担当になった。しかし、私はいじめがどんなものなのかよくわからなかった。実感がもてなかった。私はいじめられたこともないし、周りではいじめが起きたということもない。まして、私は誰かをいじめたことはない。そう思っていた。

「本人が嫌だと思ったらいじめ」という言葉をよく耳にする。これまであまり気にしてこなかったが、生徒会活動を通して、いじめについて考えるようになった。そして、私は気づかないうちに人を傷つけているかもしれない。良かれと思った言動で、誰かを嫌な気持ちにさせているかもしれない。そう思うようになった。私の言動は本当に大丈夫なのかと。そんな時のことである。

学活の時間でのことだ。同じクラスのMさんが、自分の思いを話してくれた。

「2年生の頃は、掃除なんて手を抜こうと思っていました。でも、仲間の姿を見てこのままではいけないと思ったんです。そして、役割に関係なく働ける自分に変わろうと決めました。」

Mさんは私と同じ部活に所属している。私は彼女がひたむきに努力する姿を何度も見てきた。そんな彼女に対して私も思いを伝えた。

「Mさんは、いつも真面目ですごいなと思っていたから、そんなこと思っていたなんて意外でした。仲間の姿を見て、自分もやらなきゃと思えるところが素敵だと感じました。」

私は、素直な思いを述べたつもりだった。でも、授業の最後にMさんは、

「みんなにそんなふうに思われていたなんてショックでした。悲しかったです。」

と言った。彼女は、「自分が真面目でいい子」という決めつけた見方をされていたことに抵抗を感じていたらしかった。私はこの言葉にショックを受けた。私もまた彼女を決めつけて見ていたのだ。これまでに関わりもあり、一緒にいることも多く、彼女のことはわかっているつもりだった。しかし、彼女の気持ちを、本当はわかっていなかったのだ。私は彼女を傷つけた。私は彼女に謝った。彼女は、

「いいよ全然。気にしなくていい。」

と言ってくれた。しかし、私にはわからない。私は、まだもやもやしたままだ。

「人の事を決めつけずに見ていくこと」、「よくし隊」の仲間のよさ見つけでやってきたことだ。それでも、人を見ることの難しさがあると知った。そして、いじめを考えていくうちに相手が嫌だと思ったらいじめだとするなら、相手をより知ることがいじめをなくしていくことにつながるのだろうと思った。

「いじめについてよくわからない」と思っていた私だったが、「いじめ」とは遠い世界にあるのではなく、日常のありふれた人との関わりの中にあるのだと気付いた。

私は行動することでMさんと関わる事ができた。そして、伝えることでMさんの思いを知ることができた。「よりよい人との関わり方」の答えを見つけるために、私はこれからも、動き続けていきたい。考え続けていきたい。